

JRTT共有船ニュースレター (VOL7)

G7広島サミットにて共有船「SEA SPICA」が活躍

G7広島サミット(主要国首脳会議)が5月19日～21日に広島にて開催されました。宮島への移動手段としてJRTTと株式会社瀬戸内島たびコーポレーションとの共有船「SEA SPICA」が選ばれ、各国首脳の方々に短いながらも船旅を楽しんでいただくことが出来ました。船内では記念撮影や和やかに歓談された姿がうかがえました。G7サミットという政府の重要な外交イベントにおいて、共有船が大事な役割を担ったことは、とても誇らしいことだと思います。「SEA SPICA」の乗組員・関係者のご尽力に感謝いたします。

「SEA SPICA」は、2020年8月に竣工。長距離列車「WEST EXPRESS (ウェストエクスプレス) 銀河」のデザインでも知られる川西康之氏がデザインを担当し、「シップオブザイヤー小型客船部門2020」を受賞しました。

通常期は観光船として広島港～三原港間を1日1往復運航しておりますので、ぜひご乗船して頂ければと思います。

⇒「SEA SPICA」のご案内は[こちら](#)

(女性記者N.K)



岸田首相(左)と各国首脳陣 ※1



記念撮影中のイギリス・スナク首相 ※1



快適な船内で談笑中 ※1



イタリア・メローニ首相との語らい ※1



各国首脳の配偶者と岸田首相夫人 ※1



SEA SPICA全景 ※2

※1 外務省提供

※2 (株)瀬戸内島たびコーポレーション提供(今回のサミット時のものではありません)

離島航路旅客船 乗船記 ～「おがさわら丸」編～

「おがさわら丸」は、小笠原海運(株)が所有するフェリーで、おおよそ週に1便、竹芝桟橋から24時間かけて、東京の南約1,000kmの太平洋上にある小笠原諸島の父島へ向かいます。小笠原諸島に住む方々にとって、本土とを結ぶ唯一の交通手段であり、重要なライフラインとなっています。

今回、財務省理財局篠田計画官補佐ほか、同局職員の方々と共有船「おがさわら丸」に乗船・見学してまいりました。現在の「おがさわら丸」は、2代目の老朽に伴い、3代目の新造船として大型化と高速化が図られ、2016年7月に就航しました。総トン数11,035トン・全長150m、旅客定員は882名、8デッキとなっており、その大きさに驚かされます。

小笠原海運(株)のホームページでは、「おがさわら丸」の乗船券の予約だけではなく、宿泊と現地で使えるクーポンがセットになったパックも予約できますので、ぜひ、ご利用されてはいかがでしょうか？
⇒詳しくは、[こちら](#)

JRTTは、財務省理財局から調達した資金（財政融資資金）を活用し、離島航路の維持・活性化の取り組みを引き続き、行ってまいります。

(男性記者M.H)



東京・竹芝港に入港するおがさわら丸



船内案内所では、不明点について質問が可能です



ブリッジを見学



センス良くまとめられた船室



父島に停泊中の「おがさわら丸」



約150メートルの大きなフェリーです

西日本最大の国際海事展「バリシップ2023」に行ってきました！

「バリシップ」は、国内外の海事関係の企業団体等が一同に集結する、我が国でも最大規模の海事分野の展示会です。今年は4年ぶりに5月25日～27日に過去最大規模（出展社約350社以上、全参加者約11,000名以上、船内見学会参加者約3,300名以上）で開催され、「未来の船がここにある」というテーマの下、未来の船舶と海事産業に導入されるモノと情報を共有する機会となりました。カーボンニュートラルや新エネルギーの導入、DX、人材育成など、海事産業は現在多くの課題を抱えていると同時に大きな転換期を迎えている中で、新製品や新技術に関する情報が数多く展開されました。

会場の一部となった今治港では、國喜商船㈱とJRTTの共有船として山中造船㈱で建造された499GTの貨物船「國喜68」（（一社）内航ミライ研究会が次世代の内航船として提唱するコンセプトシップ「SIM-SHIP I ※」）の引渡し式が行われるとともに、一般公開されました。本船は省力化・省電力化などの新たなコンセプトを実現するため、推進効率改善・電動・デジタル機器とコンテナ型バッテリー等の設備を搭載し、CO2削減と労働環境の改善・安全性の大幅な向上を目指しています。また6月には、今治市ご協力のもと、新たなコンセプトに基づいたシステムの実証実験（離着桟・運航・電力調査）が行われます。

なお、今回のバリシップ及び「國喜68」一般公開の様子を、JRTT船舶ユーチューバー“まりなる”がレポートいたしました。後日JRTT公式YouTubeサイトにアップする予定です。乞うご期待願います。

（※「SIM」：「Ships Integration Manager」）

バリシップは [こちら](#)

國喜商船株式会社のHPは [こちら](#)

（女性記者M.N）



展示会場入口



「國喜68」(SIM-SHIP I)
船内見学会受付



「國喜68」(SIM-SHIP I)の
模型にて説明している様子



“まりなる”と「國喜68」
(SIM-SHIP I)



國喜商船㈱鍋島社長への
インタビュー撮影の様子



「國喜68」(SIM-SHIP I) (JRTT 共有船)

JRTT共有建造支援セミナーを4年ぶりに開催！

4月に「令和5年度共有建造支援セミナー」を全国7会場で開催いたしました。
(4/7東京・4/13今治・4/14高松・4/20広島・4/21大阪・4/26長崎・4/27福岡)
合計で約250名の多数の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。

JRTTの船舶共有建造制度に関するご説明や技術調査の報告のほか、内航海運業界における最新のトピックについて、関係機関や外部有識者からご講演いただきました。外部の講演者の皆様には改めて感謝申し上げます。4年ぶりに参加者の皆様とお会いして、多数のご質問やご意見を頂き、貴重なお話をお伺いすることができました。JRTTは、今後も皆様のお役に立てるよう、さらに身近な存在になることを目指してまいります！

セミナーの講演資料は、JRTT公式サイトに掲載しておりますので、参加できなかった方は是非ご参照ください。
JRTT公式サイトは[こちら](#)

新船建造のご相談やセミナーの講演内容に関するご質問は、建造促進課宛てにお問合せください。
(共有船舶建造支援部 建造促進課 TEL:045-222-9138)

【令和5年度共有建造支援セミナー 講演内容】

- (1)「JRTT令和5年度共有建造の状況」(JRTT)
- (2)「内航DX・GXの基盤となる船内・船陸間の通信技術の紹介」(JRTT)
- (3)「連携型省エネ船について」(国土交通省 海事局 海洋・環境政策課)
- (4)外部有識者講演
 - ①「内航海運業界における水素の未来」(商船三井テクノトレード株式会社)
 - ②「内航船員養成の現状について」(独立行政法人海技教育機構)
- (5)「海上交通バリアフリー施設整備助成制度」(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)
- (6)「共有船建造事業者向け造船関係事業資金融資制度」(公益財団法人日本財団)



開会挨拶
JRTT
寺田副理事長



外部有識者講演①
商船三井テクノトレード(株)
取締役 常務執行役員 高尾様
水素ビジネスデザイン部 部長代理 廣瀬様



外部有識者講演②
(独)海技教育機構
企画調整部長 外谷様



各会場の様子(左上:東京、右上:大阪、右下:福岡、左下:今治)

「せとうち島旅フェス2023」にJRTTが初めて出展しました！

『せとうち島旅フェス2023～島々とともに歩む SDGs～』（主催：本州四国連絡高速道路株式会社、共催：香川県）は、地域連携の取り組みとして、瀬戸内地域の関係者と連携し、瀬戸内の魅力を発見、発信し、地域内外のつながりを創出するために、5月21日に瀬戸中央自動車道与島パーキングエリア（香川県坂出市）にて開催され、JRTTは、その情報発信を目的として今回、初めて出展したところです。

当日は晴天にも恵まれ、汗ばむほどの陽気の中、四国の方々だけでなく、兵庫県、岡山県等本州からも、子供から高齢者の方まで多くの方々（約11,000名）が来場され、賑わっておりました。

JRTTのブースではパンフレット、パネル、動画を活用して、共有船舶、鉄道建設をはじめとするJRTTの各種業務について積極的に情報を発信しました。

JRTTの業務を御存知の方からは御質問も頂き、更に詳細に御説明をしたところですが、多くの方はJRTTを御存知なかったため、わかりやすい御説明に努めたところです。

今後もイベント出展等を通じ、より多くの方々にJRTTの業務内容を知って頂くように広報業務の充実に力をいれてまいります。

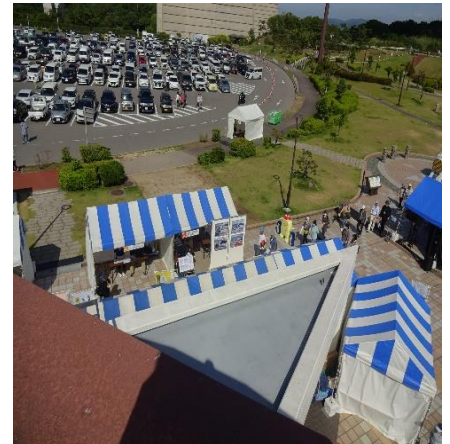
（男性記者 M.E）



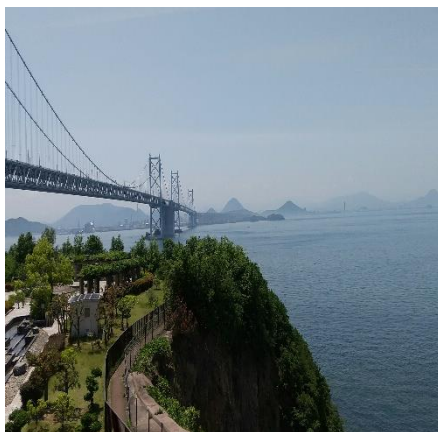
子供からお年寄まで
多くの方々が来場されました



パンフレット、パネル、動画を活用して
JRTT業務を情報発信しました



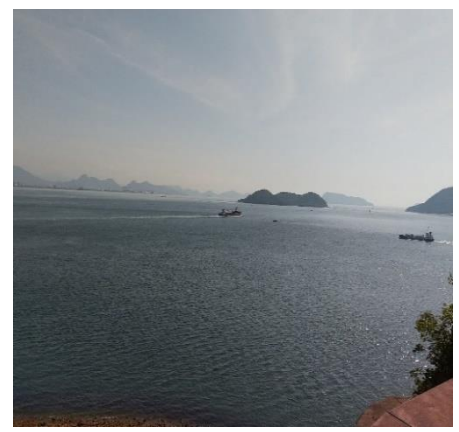
多くの来場者の車で混雑した
駐車場とJRTTブース



与島パーキングエリア
からの瀬戸内海 ①



与島パーキングエリア
からの瀬戸内海 ②



与島パーキングエリア
からの瀬戸内海 ③

JRTTからのお知らせ

OJRTT公式YouTubeチャンネル

整備新幹線、都市鉄道、船舶等の貴重な映像を公開しています。

https://www.youtube.com/c/jrtt_official

OJRTT公式Twitter

JRTTの様々な情報をリアルタイムで発信しています。

https://twitter.com/JRTT_PR

ぜひご覧ください！

YouTube



離島航路姫

Twitter



船旅王子

編集担当者のひとりごと

「ロボットは東大に入れるか」という人工頭脳(AI)の開発プロジェクトが、国立情報学研究所で取り組まれていましたが、2016年に東大合格を断念。『東大を目指そうとすると、全ての分野を強化しなくてはならない。AIで意味を理解するという分野を突き詰めようとする、時間とコストがかかる』と発表がありました。

7年後の2023年3月、米国のOpenAIが対話型人工知能ツールChatGPT-4という生成系AIを開発。「兆」を超えるウェブ情報の事前学習から相応しいテキストを確率で選んで回答するAIが話題です。

ChatGPT-4の実力は、法科大学院進学適性試験や米国統一司法試験合格。米国の大学院進学適性試験の語学、数学の図形を含むテストでも良いスコアを出したと記事があります。

大人の理解語彙は、4万～5万語といわれていますので、ChatGPT-4は、「兆」を超えており人間の能力を遙かに超えています。

私は、MicrosoftのBingがChatGPT-4で更新されたと聞いて、早速、Bingチャットをスマートフォンで使いはじめました。

公開されている企業の財務諸表の分析やその会社SWOT分析や3C分析を依頼すると一瞬で作成されました。しかしながらAIの回答の正確性を判断する、矛盾を見抜く力は必要ですし、AIへの質問の仕方も「順序立てて」、「10歳の小学生にわかるように」とか、プロンプトエンジニアリングという数学の証明問題を作るようなテクニックが必要です。一方、メリットは、失敗、成功事例などを対話すると意外な方向性に気付くことです。

今後、AIをどう活用するかですが、2023年3月、MicrosoftのWord、Excel、outlook、Teamsを含むオフィス365にCopilot(副操縦士)というAI機能が加わると発表があり、プロモーションなどを見ると、

Excelは、表やグラフを自動作成するだけでなく、それぞれのデータの解説を出力させることができ、売上データの変化をもとに、将来の予測まで依頼ができるみたいです。

Teamsでは、会議の議事録やその要約を作成させる。outlookでは送られたメールの内容を要約させ、返信内容を提案させるなど。また、Wordで作った原稿をプレゼン用にPowerPointに置き換え、その読み上げ用の原稿の作成まで依頼できるようで、時間をかけてゼロから考える必要がなくなり、作業の品質やスピードに大きな変化が起きると考えます。

自動車は、大気汚染や交通事故などリスクがありますが、その普及は止まらないように、AIもセキュリティや安全面のリスクがあり、ロボット工学三原則みたいな規制や使う側の道徳は必要でしょうが、便利さを優先する人間の本質を止めることはできないでしょう。今後、画像生成を含め生成系AIの普及は急速に広がるでしょう。

さて、あなたは、「Bard」、「Bing」それとも、それ以外の生成系AIを使っています？ (男性記者T.S)

※アンダーライン部分でCtrl+Enetrを押すと関連情報にリンクします。

■本ニュースレターに関するお問合せ先

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 共有船舶企画管理部 企画課

TEL:045-222-9129 Email: ship_pr-b6k3@jrtt.go.jp

※本ニュースレターは2023年5月31日時点の情報を基に作成しています。